鹿戸之神社の御神体

白沢に鹿戸之神社という神社がある。兄頼朝に追われた義経が、一時、藤原泰衡を頼ったが泰衡にも攻められ、館で自害したようにみせかけエゾ地へ逃げたが、供におくれた亀井六郎重清が義経のあとを追う途中、この地の槻の木のほら穴に、髪の中にかくしてあった一寸八分の観音像と秘巻を納めた。その後、この仏像と秘巻を御神体として、里人が堂を建て祀ったのが鹿戸之神社の起こりといわれている。